第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立田隈小学校
校 長　遠 入 哲 司

1 単元名 「やさしい町、田隈」

2 単元の目標

○ 障がいや特性、障がいや特性のある人たちが困っている事等について理解し，自分たちができることを考えることができる　（知識及び技能）

○ 障がいや特性のある人、その人々をサポートするする人（田隈校区社会福祉協議会・早良区区役所）の人々との出会いや体験をもとに、校区を見つめなおし、校区のよさを見つけることができる。
（思考力・判断力・表現力等）

○ 田隈校区で暮らす人たちが安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち，意欲的に障がいのある方と関わったり，校区での活動に参加しようとしたりすることができる。
（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元について

（1）教材観

本単元では，「身体障がい」，「視覚障がい」「認知症」について、障がいのある方や障がいや特性のある方を校区で支える活動をしている社会福祉協議会の方との出会いを教材として取り上げる。

田隈校区の社会福祉協議会や早良区役所の方を招き，活動の内容や意義を学ぶことで，障がいや特性のある方々が安心して暮らせるようにするためには、単に施設や設備を充実させるだけではなく、住民の心がけと行動が必要であることに気づかせ、自分自身も田隈校区がやさしい町であり続けるように、自ら意欲的に行動しようとする姿につながることが期待できる。さらには，GT とのコミュニケーションを通して，人とのつながりの心地よさや，関係を深めるコミュニケーションのスキル向上も図ることができる。

（2）児童観

本学年の児童は、1～3 年生において、「手話で歌おう」「ぐんぐん育てわたしの野さい」「われら田隈探検隊」の学習を通して、田隈小学校校区の様々な人々とのかかわりを経験すると共に、感謝の手紙を書く活動を行ってきた。これらの学習を通して、「田隈小学校校区にはやさしい人がたくさんいて私たちに関わってくれている」ということには気づいてきているが、自分自身が校区の一員であり、自分達にもできることがあるということについてはまだ十分に気づいていない。

この時期に、福祉についてとりあげ、校区で困っている人々を支える視点から校区を見直し、自分にできる行動を考えそれらを校区の人々に発信する活動を通して、自分自身が校区をよりよくする一員であることに気付かせたい。また、社会福祉協議会をはじめとして各種団体が校区をよりよくするための活動に参加していくようにすることで、自分一人だけではなく、友達をはじめとする周りの人々と協働することの大切さに気付かせたい。来年は5年生になり、学校全体のリーダーとして活動するこの時期に、「みんなのために」「力を合わせて」ということの大切さを学ばせることができるという点においても、本課題を取り上げる意義は大きい。

また、1人 1 台端末についても、基礎基本の操作に慣れてきており、端末を活用した資料の作成などにも取り組むことができるようになってきている。

（3）指導観

本単元の指導に当たっては，まず，田隈校区のよさについて児童が考えていることを確認する。現時点では「地下鉄の駅に近い」「高速道路の入り口に近い」「ボール遊びができる公園がある」「買い物が便利」などの施設・設備的な面に関して注目していることに着目させ、「田隈小学校校区は誰にとっても住みよい町だろうか」と問いかけ、課題意識をもたせたい。

次に，車椅子体験、目隠し・点字体験、認証サポーター研修などを通して、様々な障がいや特性がある人たちが困っていること、それらを支援するための取組や行動について気付かせる。この際、困っている人々を支える活動をしている方々の活動に対する思いや願いについても気付かせる。この後、学習したことをもとに、校内にある施設や設備について調べさせ、校内マップ作りに取り組ませる。この後、「施設や設備だけで十分か」問いかけ、自分も含め校内の一人ひとりが心掛けなければならないことがあることを考えさせる。

さらに、校区の中で危険な場所の写真などを提示し、「田隈校区はみんなが住みやすい町になっているか」問いかけ、学習によって得た気付きを校区全体に広げる。1人1台端末を活用して、身の回りの施設や設備などについて調べさせ、交流させることにより田隈校区に困っている人にもやさしい施設や設備がたくさんあることに気付かせる。さらに、「やさしい町、田隈」について、再度問いかけ、校区がやさしい町であるために、単に施設や設備の充実だけではなく、自分自身を含めた一人ひとりの行動が必要であることに気付かせていきたい。

（4）ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…現在の地域の様子は，そのまま未来の地域の姿であり，自分や身内の者が年老いた時に，安心が担保されていない地域となっている可能性があるということ。

公平性…障がいのある人は地域の中で孤立しがち。これを見過ごせば恵まれた環境にある人のみが安心して過ごせるまちとなってしまうということ。

連携性…障がいや特性のある人を含め、田隈小学校校区がよりやくなるためには、一部の人だけではなく自分自身を含め、地域全体で一人ひとりが考えて行動することが大切であること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

施設や設備があることだけではなく、人々の協力があってお互いが支え合える状況が生み出されること。

つながりを尊重する態度

田隈小学校校区の社機福祉協議会や，障がいのある方などとの関わりを通し，様々な人とのつながりにより自分自身の学びが深まったことを自覚する。

他者と協力する態度

自分にできることはないか、一緒にできることはないか考え、地域社会に貢献しようとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく，障がいや特性がある人など，同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせるまちづくりが大切である。

人権・文化の尊重

障がいや特性のある人が住みよい田隈校区にするにはどうすればよいかを考えることは、自分自身を含め、そこに住むすべての人々の人権を守ることにつながっている。

幸福感への気づき

自分だけが幸せであることが，将来的にも幸せであるとは限らない。

・達成が期待されるSDGs

10 不平等の解消

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

(ｱ)知識及び技能	(ｲ)思考力・判断力・表現力等	(ｳ)主体的に学習に取り組む態度
①障がいや特性がある人たちが困っている事や困り感を支える様々な取組があることなどについて理解している。 ②学んだり，体験したり、調べたりして獲得した知識を，言葉や図，絵などを用いてまとめる技能を身に付けている。	①車椅子体験、目隠し体験などをもとに校内や校区にある、住んでいる人にやさしい施設や設備について調べることができる。 ②自分が調べた施設や設備などについて1人1台端末を活用してまとめ、発表することができる。	①みんなが住みよい田隈小学校校区にしたいという目的意識をもち，意欲的に行動しようとしている。 ②校内や校区の調査を意欲的に行う。 ③学んだことをクラスの友達に積極的に発信しようとしている。

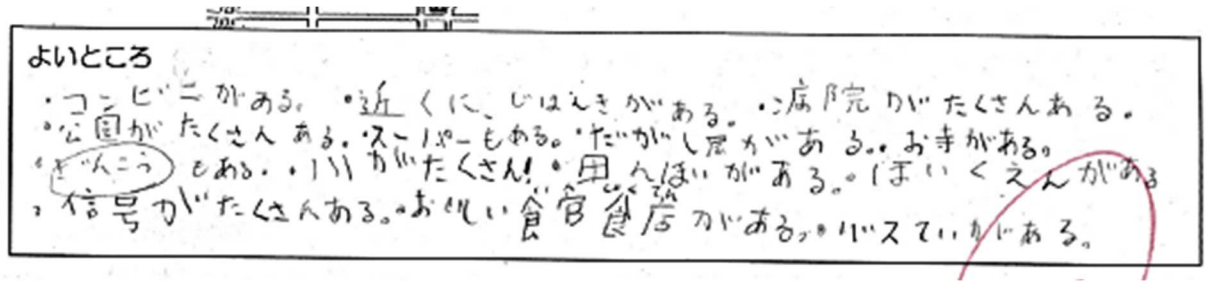
5 単元の指導計画（全41時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
【第1次】 1 田隈小学校校区のよさを発表し合い、今後の活動の見通しをつかむ。 ・交通の便がよい（バス・地下鉄・高速道路） ・買い物が便利 ・病院が多い 田隈校区は誰にとっても住みよい校区かどうか考える	○段差がある道路、細い車道等校区内の写真を提示し、「このようなところを車椅子の人が通るとしたらどうだろう？」と問いかけ、「本当に誰にとっても住やすい校区」か考えさせるようにする。	ウ① （主）
【第2次】 2. 盲目のピアニスト内藤さんの話を聞く。 3 車椅子体験をする。（体育館周辺） ・車椅子はこんなところが大変だ ・誰かに手伝ってほしい 4 アイマスク体験をする。（体育館） ・階段の上り下りがこわい。 ・他の人と一緒だと安心だ。 5. 認知症キッズサポーター体験をする。 ・同じことを繰り返す理由がある ・周りにいる人の支えが必要だ。 6. 活動の振り返りを行い、追究の視点をもつ ・学校の中は過ごしやすいだろうか ・校区は住みやすくなっているだろうか	○障がいがある方と出会わせる。 ○車椅子体験、アイマスク体験、認知症キッズサポーター体験活動を行い、障がいや特性がある人々の困り感に気付かせる。 ○早良区や田隈校区の社会福祉協議会の方から活動について説明してもらい，活動の意義をつかませる。 →3つの活動の共通点 ・施設や設備だけではなく、人々の行動（支援）が必要 ○今後の活動へと連続発展させていかせるために，交流を通して得た思いを想起させる。	イ① （思判表） ア① （知技） ア② （知技）
【第3次】 7. 学校や地域を調べ、田隈校区を住みよい校区にする方法について考える。 （1）校舎内や校区を調べる。 （住みやすくする工夫がされているところ・気を付けた方がよいところ等） ・校舎図に記入する。 ・タブレットで写真を撮る。 ・校区マップにまとめる。 （2）気が付いたことを学級内で交流し、田隈校区のよさについて考えを深める。 ・人や人の働きへの気づき 8. 活動の振り返りをする。 ・校区の人に知らせたいな。 ・自分自身が何をすればよいかな。	○校舎内、校区内に設置されている施設・設備の写真や、それらが使いにくい状況になっている個所の写真などを提示する。 ○今後の活動へと連続発展させていかせるために，「自分自身」の役割にも着目させるようにする。	ウ② （主） ア② （知技） イ① （思判表） イ② （思判表） ウ③ （主）

6. 指導の実際

【第1次】

○ 子ども達は、田隈校区をよい校区だと思っている。そこで、自分たちが住む田隈校区のよさについて、どれくらい知っているか校区地図をもとに、書き込ませ交流させた。この結果、ほぼすべての子ども達が、校区にあるお店や建物を校区のよさとして考えており、人についての気づきはないことが分かった。



資料① 児童Ａの考え

次に、「小さな子ども」「お年寄り」「障がいがある人」「外国人」などの人にとっても、よい校区か問いかけると、「障がいがある人」にとっては、「（細い）道がたくさんある」「段差や階段がある」「トイレが使いにくい」などの点で暮らしにくいのではないか、という考えが出され、「私たちにとってはよい校区だけど、障がい者の人にとっては住みやすい校区ではないのかもしれない」という気付きが生まれることになった。

【第2次】

○ 第2次では、障がい者や特性のある人の立場にたって考えられるように、様々な人々との出会いや体験活動を位置付けた。まず、「盲目のピアニスト 内藤さん」の話を聞く活動を行った。目が不自由なのに練習して上手にピアノを弾きこなす内藤さんの話を聞くことで、子ども達の、障がいがある人に対するとらえ方が、「かわいそう」から「自分達と同じ、むしろ自分達よりもすごい」と変容してきた。

次に、車椅子体験・アイマスク体験を行った。この活動から早良区や田隈校区の社会福祉協議会の方にゲストティーチャーとして学習の支援をお願いした。車椅子体験では、体育館に坂道、狭い道や段差などを含むコースを設定し、「車椅子を操作する人」「車椅子を押す人」の2人1組で活動をおこなった。アイマスク体験においても、体育館から校舎北棟の児童用玄関まで、「アイマスクをする人」「サポートをする人」の2人１組で往復させた。これらの活動を通して、多くの子どもが、自分達にとって当たり前の「歩く」「階段を上る」などの行動が、障がいのある人にとっては、「こわい」「大変」な行動であることや、障がいのある人は「誰かに助けてほしいのではないか」ということに気が付いた。また、サポートする人にも責任感が必要であることに気が付いた。

資料②様々な体験を行う子ども

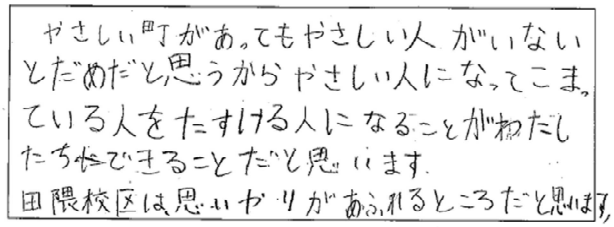
最後に、校区の一緒に、認知症サポーター養成講座を受講した。学習後の感想では、「認知症になっても感じる心は残っていると知ったので、これから認知症の人に出会ったときは、相手の気持ちになって優しく声をかけるようにして、人として支える杖になりたいです」と自らの行動についても考えることができる子どもが現れた。

【第3次】

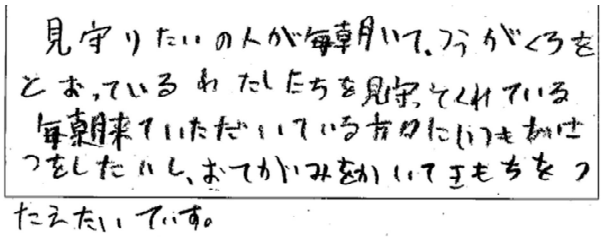
○ 第３次では、今まで学習したことをもとに、再度自分達の住む地区を中心に校区のよさ（やさしさ）を見つけ、交流し合う活動をおこなった。交流においては、１人１台端末を活用し、自分の通学経路にある「いろいろな人にとって自分がやさしい」と思えるものを撮影し、校区マップに張り付け、それを資料として説明した。第１次の時には、よさとして認識していなかった「音の出る信号機」「点字ブロック」「自動で点滅する照明灯」などについても、人にやさしいものとして、校区のよさとして考える子どもが増えたことが分かった。

資料③交流する子ども

最後に、子ども達の行動化につなげるために、「田隈校区はどんなところがやさしいと思うか」「田隈校区がこれからもやさしい校区であるために、自分は何をしたいか」の2つを問いかけた。


やさしい町があってもやさしい人がいないとだめだと思うからやさしい人になってこまっている人をたすける人になることがわたしたちができることだと思います。
田隈校区は思いやりがあふれるところだと思います。

資料④「やさしい町であるために、やさしい人が必要だ」と気付いた B


見守りたいの人が毎朝いて、ろうがくろをとおっているわたしたちを見守ってくれている毎朝来ていただいている方々にいつもあいさつをしたりし、おてがみをかいてまもちをつたえたいです。

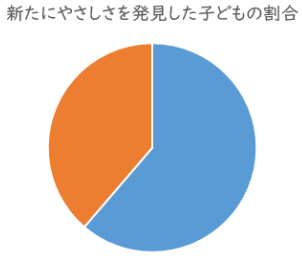
資料⑤「登下校の見守りをしている人たちもやさしい人だ」と気づいた C

7・成果と課題

【成　果】

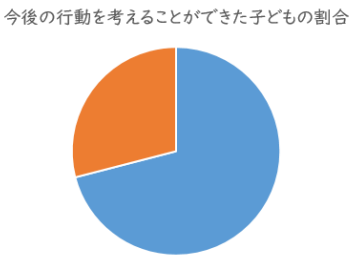
①総合的な学習の時間の目標から

田隈校区が、「小さな子ども」「お年寄り」「障がいがある人」「外国人」などの人にとっても、よい校区か、と問いかけたことで、子ども達は新たな視点で校区を見つめなおすことができ、61％の子どもが、校区のよさ（やさしさ）を見直すことにつながった。



②ESD の視点から

本学習を通して身につけさせたい資質や能力「多面的・総合的に考える力」「つながりを尊重する態度」「他者と協力する態度」などについて、具体的な姿としてみることができた。また、71％の子どもが、田隈校区がやさしい町であるために自分が行う行動について考えることができた。



【課題】

①総合的な学習の時間の目標から

「校区のよさ」「校区のやさしさ」という2つの内容が混在したため、「やさしさ」を見つけるということに、子ども達が混乱している場面が見られた。当初から「やさしさ」について活動を絞っていけば、新たなやさしさを発見できた子どもがもっと多くなったと考える。

②ESD の視点から

本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）で相互性・公平性・連携性を取り上げていたが、ここで多様性を位置付けておくことで「障がいがある人がいるから、このような施設や設備、人の働きがあり、それは私たちにも役に立っている」というユニバーサルデザインにつながる学習になったと考える。